

< 導入 >2. 宗教としてのキリスト教2 - 1:キリスト教の多様性と統一性2 - 2:信仰2 - 3:神2 - 4:象徴・神話第一部:キリスト教思想の源流と展開序論:キリスト教研究に向けて

## 1.言語 - 歴史 - 思想

言語(文学・文献):

聖書神学

歴史:

歴史神学

思想:

教義学・組織神学、キリスト教倫理学

## 2.事柄に即してみても何が問題か

現在何が問題とされているか(これまで何が問題とされてきたか)

自分は何を問題にしたいのか

第1講:聖書 - キリスト教思想の源流 -1. 正典論と聖書学- 神の言葉と人間の言葉 -1 - 1:聖書の言葉の二重性

## 3.聖書とは?

宗教書である

神の言葉

正典論(信仰)

歴史的文献である

人間の言葉

近代聖書学(理性)

## 4.イエス・ルネサンスと聖書学の新しい展開

合意事項の崩壊とその後(新しい合意形成の試み?)

## 5.聖書を読む立場

・現代人(とくに非キリスト教徒)が聖書を読むとは?

・聖書をどう読もうと私の勝手?

・聖書とはどんな書物であるかに即した読み方

読解の解釈学的構造:

テキスト世界と読者の生活世界との地平の融合

## 6.聖書の歴史性に注目する方法論

聖書と現代との歴史的距離の意識

近代人の日常性・歴史意識

1)宗教書として成立し伝承され、そのように読まれることが意図されているという

歴史的事実を尊重する

「神の言葉」としてではなく、

「神の言葉として意図されているもの」として

聖書テキストの解釈からキリスト教思想へ

2)一般的なテキスト解釈学の方法論を採用する

文献学的、歴史的、構造主義的、文芸批評的

## 1 - 2 : 正典論と靈感説

### 7. Canon:

The Greek word                      meant a straight rod or bar. Metaphorically the term came to be used of the rules of an art or a trade to signify a list or catalogue. In Christian language it was adopted to denote the list of inspired books which the Church regarded as composing Holy Scripture, liturgical rules, esp. that part of the Mass which includes the consecration and rules concerning the life and discipline of the Church. (230L)

### Canon of Scripture:

The term, used also in a large sense for a list or catalogue, gradually acquired a technical meaning for the Books which were officially received as containing the rule of the Christian faith. (232L)

The Oxford Dictionary of the Christian Church

リチャードソン / ボウデン編 『キリスト教神学事典』(教文館)

### 8. 灵感説の二つの立場:

- : 「聖書 = 啓示(神の言葉)」の実体的静的同一性  
逐語灵感説(*inspiratio verborum*)
- : 「聖書 神の言葉」の動的同一性(動的灵感説)  
人間の言葉と神の言葉との間接的同一性  
神の言葉の出来事性

## 2 : 啓示

### 9. バルト: 神の言葉の神学 神の言葉の三一性 教義学の三一性

Dogmatik ist als theologische Disziplin die wissenschaftliche Selbstprüfung der christlichen Kirche hinsichtlich des Inhalt der ihr eigentümlichen Rede von Gott.(1)

Das Wort Gottes in seiner dreifachen Gestalt

Das verkündigte Wort Gottes / Das geschriebene Wort Gottes

/ Das geoffenbarte Wort Gottes

### 10. キリストの二重性(両性論) 聖書の言語的な二重性(神言性・人言性) analogia / symbol/ metaphor 聖書解釈の方法論

<ブックガイド>

1. 日本基督教団出版局編 『聖書学方法論』
2. 上田光正 『聖書論』(日本基督教団出版局)
3. イーグルトン 『文学とは何か』(岩波書店)
4. 渡辺善太 『聖書論 第一巻聖書正典論』(新教出版社)
5. 田川建三 『書物としての聖書』(勁草書房)
6. 宮本・山本・大貫 『聖書の言語を超えて』(東京大学出版会)
7. ボーグ 『イエス・ルネサンス』(教文館)
8. バルト 『教会教義学 神の言葉I/1 序説/教義学の規準としての神の言葉』(新教出版社)  
Karl Barth, Die Kirchliche Dogmatik I,1
9. 大木英夫 『バルト』(講談社)